

第 58 期
中 間 報 告 書

(平成29年 4 月 1 日から)
(平成29年 9 月 30 日まで)

fligan

愛眼株式会社

証券コード 9854

株主の皆様へ

株主の皆様には、日ごろより格別のご支援を賜り誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、当社は平成29年9月30日をもって第58期第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）を終了いたしましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が進み、緩やかに回復しておりますが、一方で、米国トランプ政権の政策運営動向や北朝鮮情勢の緊迫化などによって先行きの不透明感が高まっております。個人消費に関しては、緩やかに回復してきているものの、賃金の伸び悩みや社会保険料の負担増加などに加え、消費者物価が前年比プラスに転じたことが可処分所得の重石となっており、引き続き消費者の節約志向が続いております。

このような状況のもと当社グループは、お客様からの支持・信頼の獲得に焦点を当てた諸施策による事業収益の拡大と、経費コントロールなどによる経営効率の向上を進めることで、成長軌道のスタート点である黒字化に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業の既存店売上が堅調に推移したことにより、売上高は8,610百万円（前年同四半期比3.0%増）となり、売上総利益率は0.9ポイント改善しました。一方、広告宣伝費の効率的な運用など経費コントロールの徹底に努めたことにより、販売費及び一般管理費は5,624百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。この結果、営業利益は330百万円（前年同四半期比873.1%増）、経常利益は359百万円（前年同四半期比415.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は258百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失215百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

【眼鏡小売事業】

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、お客様の嗜好、ライフスタイルに合った最適な商品の提供を目指す「アイスタイリング・サービス」を主軸にした愛眼ブランドの強化に鋭意取り組んでおり、高い専門性と安心感をお客様に実感していただける店舗運営を目指しております。

商品につきましては、「目の健康」をテーマとした快適で機能的なレンズやフレームなどの高付加価値商品を増強し、価格志向、品質・性能・デザイン性重視など幅広い年齢層のお客様の様々なニーズに即した商品の品揃えの充実に努めてまいりました。

売上高につきましては、既存店の客数が前年同四半期比で増加するとともに、品揃えの拡充により販売単価が改善した結果、増収となりました。品種別では、サングラスは販売促進の強化を図りましたが、前年同四半期比で若干減少いたしました。一方、補聴器はレンタルサービスとアフターケアが好評を得ており、堅調に推移しております。

店舗につきましては、2店舗を出店、2店舗を閉店したほか、計画的な既存店の活性化を進め、7店舗で改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は8,232百万円（前年同四半期比3.6%増）、セグメント利益は390百万円（前年同四半期比275.9%増）となりました。

【眼鏡卸売事業】

眼鏡卸売事業につきましては、得意先小売店に対する販売支援を通じ、業績向上のバックアップに努めるとともに、新規得意先の開拓に取り組んでおりますが、売上高は244百万円（前年同四半期比8.8%減）となり、セグメント損失は0百万円（前年同四半期はセグメント利益1百万円）となりました。

【写真館事業】

写真館（名称：愛写館）3店舗を営む写真館事業につきましては、競争の激化により厳しい状況が続いておりますが、第1四半期に横浜本店の改装を実施するとともに、外販活動を強化するなどの売上向上策に取り組んでおります。

この結果、写真館事業における売上高は54百万円（前年同四半期比1.7%減）、セグメント損失は35百万円（前年同四半期はセグメント損失23百万円）となりました。

【海外眼鏡販売事業】

海外眼鏡販売事業につきましては、経営環境が引き続き厳しい状況にあるなか、商品ラインナップの拡充等に取り組み、採算の改善に努めておりますが、店舗数の減少に伴い売上高は78百万円（前年同四半期比15.2%減）、セグメント損失は6百万円（前年同四半期はセグメント損失5百万円）となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご厚情を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成29年12月

代表取締役社長 下 條 三千夫

企業集団の財産及び損益の状況

区 分	第55期 (平成27年3月期)	第56期 (平成28年3月期)	第57期 (平成29年3月期)	第58期(中間) (当連結累計期間) (平成30年3月期)
売 上 高(百万円)	15,988	16,563	15,957	8,610
経常利益又は 経常損失(△)(百万円)	△341	210	11	359
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失(△)(百万円)	△1,237	43	△390	258
1株当たり四半期(当期) 純利益又は1株当たり(円) 当期純損失(△)	△63.76	2.24	△20.11	13.31
総 資 産(百万円)	17,429	17,334	16,773	17,080
純 資 産(百万円)	14,436	14,438	13,991	14,266
1株当たり純資産額(円)	743.78	743.90	720.88	735.05

株式の状況 (平成29年9月30日現在)

- (1) 発行可能株式総数 60,000,000株
 (2) 発行済株式の総数 21,076,154株
 (3) 株 主 数 22,637名
 (4) 大 株 主(上位10名)

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
有 限 会 社 佐 々 興 産	2,138 千株	11.02 %
愛 眼 従 業 員 持 株 会	1,088	5.61
愛 眼 共 栄 会	956	4.93
株 式 会 社 瑞	635	3.27
佐 々 栄 治	634	3.27
佐 々 千 恵 子	442	2.28
佐 々 善 二 郎	413	2.13
下 條 三 千 夫	315	1.62
セイコーオプティカルプロダクツ 株 式 会 社	298	1.54
佐 々 昌 俊	274	1.41

(注) 持株比率は、自己株式(1,667千株)を控除して計算しております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前期末 (H29. 3. 31現在)	当第2四半期末 (H29. 9. 30現在)	科 目	前期末 (H29. 3. 31現在)	当第2四半期末 (H29. 9. 30現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	8,163	8,457	流動負債	1,979	2,064
現金及び預金	4,901	5,085	支払手形及び買掛金	547	632
受取手形及び売掛金	753	873	1年内返済予定 の長期借入金	225	—
商品及び製品	2,251	2,217	未払法人税等	185	168
原材料及び貯蔵品	29	33	賞与引当金	—	122
その他	231	251	その他	1,020	1,142
貸倒引当金	△3	△3	固定負債	802	748
固定資産	8,609	8,622	繰延税金負債	49	58
有形固定資産	3,028	3,103	再評価に係る 繰延税金負債	6	6
建物及び構築物	1,026	1,050	資産除去債務	338	333
土地	1,887	1,887	リース債務	240	183
リース資産	34	25	その他	167	167
その他	79	139	負債合計	2,781	2,813
無形固定資産	69	59	純資産の部		
リース資産	54	46	株主資本	16,316	16,574
その他	14	12	資本金	5,478	5,478
投資その他の資産	5,511	5,459	資本剰余金	6,962	6,962
投資有価証券	1,393	1,422	利益剰余金	4,926	5,185
敷金及び保証金	3,468	3,387	自己株式	△1,050	△1,050
その他	649	649	その他の包括利益累計額	△2,325	△2,308
資産合計	16,773	17,080	その他有価証券評価差額金	116	135
			土地再評価差額金	△2,471	△2,471
			為替換算調整勘定	29	27
			純資産合計	13,991	14,266
			負債純資産合計	16,773	17,080

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第 2 四半期(累計) (H28. 4. 1～H28. 9. 30)	当第 2 四半期(累計) (H29. 4. 1～H29. 9. 30)
売上高	8,361	8,610
売上原価	2,649	2,656
売上総利益	5,711	5,954
販売費及び一般管理費	5,677	5,624
営業利益	33	330
営業外収益	76	64
営業外費用	41	34
経常利益	69	359
特別損失	234	5
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△164	354
法人税、住民税及び事業税	48	94
法人税等調整額	2	1
法人税等合計	50	95
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△215	258
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△215	258

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第 2 四半期(累計) (H28. 4. 1～H28. 9. 30)	当第 2 四半期(累計) (H29. 4. 1～H29. 9. 30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	194	625
投資活動によるキャッシュ・フロー	△259	△154
財務活動によるキャッシュ・フロー	△127	△285
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△195	184
現金及び現金同等物の期首残高	1,975	2,144
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,780	2,328

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概況 (平成29年9月30日現在)

商号	愛眼株式会社
本社	大阪市天王寺区大道四丁目9番12号
設立	昭和36年1月11日
資本金	5,478百万円
主要な事業内容	当社グループは、眼鏡・サングラスその他関連商品を取り扱う眼鏡専門店チェーンと写真館を展開しております。
従業員数	759名 (ほか平均臨時従業員数414名)
店舗数	眼鏡店 240店舗 写真館 3店舗
連結子会社	2社

役員 (平成29年9月30日現在)

取締役会長	佐々栄治
代表取締役社長	下條三千夫
取締役	菅野忠司
取締役	下條謙二
取締役	佐々昌俊
取締役	森重洋一
常勤監査役	叶雅文
監査役	吉岡一彦
監査役	山田吉隆

- (注) 1. 森重洋一氏は、社外取締役であります。
2. 吉岡一彦及び山田吉隆の両氏は、社外監査役であります。

株主優待

3月31日及び9月30日現在、当社の株式を次のとおりご所有の株主様に対し、株主優待割引券を贈呈します。

[メガネ]	・100株以上500株未満ご所有	30%割引券1枚
	・500株以上ご所有	30%割引券2枚
	(但し、特別限定品は20%割引)	
[補聴器]	・100株以上ご所有	10%割引券1枚
	(但し、特別限定品は除く)	

株 主 メ モ

事 業 年 度
定 時 株 主 総 会
基 準 日

毎年4月1日から翌年3月31日まで

毎年6月開催

(1) 定時株主総会・期末配当 3月31日

(2) 中間配当 9月30日

その他必要あるときは、あらかじめ公告して
基準日を定めます。

単 元 株 式 数
株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関
株主名簿管理人
事務取扱場所
(郵便物送付先)

100株

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

大阪市中央区北浜四丁目5番33号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)
(インターネット
ホームページURL)
公告の方法

☎ 0120-782-031

[http://www.smtb.jp/personal/agency/
index.html](http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html)

電子公告

但し、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない場
合は、日本経済新聞に掲載して行う。

上 場 証 券 取 引 所

東京 市場第一部

<ご注意>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設いたしております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

ホームページアドレス <http://www.aigan.co.jp>